

引き返した野外調査の帰り道



自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

三宅 優佳

私は地質調査を行いながら、見つかる化石から地層が堆積した時代を調べる研究をしています。野外では、岩石や岩石中に見られる堆積構造を観察し、必要に応じて化石を採集しながら調査を進めます。

しかし、自然の中で行う調査は、計画通りに進まないことも少なくありません。

北海道での調査中、子連れの熊とニアミスしました。

その先にあった目的地は諦め、急いで下山する判断をしましたが、道中に残っていた化石を諦めることはできませんでした。行き道に、後で選別するつもりで確保していた化石をすべてリュックに詰め、カバンに入らなかった大きなノジュール（団塊）は両脇に抱えて小走りに下山。

難なく車に乗せたそのリュックは、宿に戻ると、重すぎて一人では動かせませんでした。

野外調査では、火事場の馬鹿力ならぬ、化石への執念が引き出した力が、思わぬ形で働くこともあるようです。

